



## 最新の就職情報

東北工業大学工学部教授

浅田 秋江

去る3月20日にわが大学の卒業式が行われ、185名の土木工学科の卒業生が巣立った。ここに、貴協会の何かのお役に立てばと思ひ最新の就職情報と些かのコメントを差し上げたいと思う。先ず、平成二年度の卒業生の就職先の数では、断然トップが総合建設業であり、総勢72名（40%）、その内訳は中央業者55名、地元業者17名となっている。彼らの総合建設業への志向理由は、近い将来、地元支店に戻れることと、資本力の強い会社ほど安定性が高く、かつ世間体が良いということらしい。しかし、彼らの頭の中には、若しも入社して仕事がきつ過ぎたり、ストレスが多い場合には早速にも地元の公務員に再就職しようという意識が常にあるのである。何故ならば、総合建設業に就職した者の大部分が公務員試験の不合格者だったからである。

さて、その公務員試験に合格した者は29名（16%）で第2位を占めている。中央官庁へ5名、地方公務員は24名であった。その中には教員2名を含むが、風変わりなものとしては外務省、農協、消防局もある。学業成績から見ると平均点90.1から78.3までの上位三十位中、公務員合格者は12名を占め、矢張り公務員になるためには成績が良くないと駄目らしい。この2～3年の実績からみても学業成績が平均点で約78点以上にならないと国家公務員Ⅱ種あるいは地方公務員上級職の合格の可能性は低いようである。

ところで、私は彼らが公務員になることには大賛成である。しかし、それは彼らが国のため県のため市のために滅私奉公するという心根があればの話である。だが彼らの公務員志向には不潔さが漂っている。以下は彼らとの一問一答である。「君は何んのために公務員になるのだ?」「公務員は生活が安定しておりますし、役所は潰れることはありませんから」先生の手前、その程度のことしか言わないが、本音は、地元の役所に勤めれば給料は安い仕事は楽だし休日が多く学生時代に培った趣味を生かせるし、給料が少ない分は親から援助して貰えるということであろう。

ところで、貴協会が属しているコンサルタント関係への就職率はどうかというと、堂々

の躍進ぶりで第三位、23名（12％）に達している。中味は、中央業者に15名、地元業者に8名である。就職した卒業生の学業成績も比較的良く、平均点90.1から79.7まで上位20位内に5名入っており大手ゼネコンに就職した者達3名を上廻っている。この傾向は2・3年前までは考えられなかったことで、当時、学生に「どうしてコンサルタントに就職しないのか」と聞くと、「コンサルタントは残業が多いから」と言うことであった。本当は勉強がついて行けないからだろうと私は内心思っていたが、それにしても今回の躍進ぶりはどうしたのだろうか。推測するに、多分、各会社の人事担当者のご努力とわれわれ教官達の反省の表れのような気がする。昔、そうであったように会社と研究室との研究上あるいは技術上の密接な交流が再現されるならばコンサルタント業界への就職率の向上がさらに期待されるものと私は信じたい。

しかし、そう思いつつも学生自身の気質が急に変わると思われぬ。冒頭に述べたように、「入社して、仕事がきつ過ぎたり、ストレスが募ってきた時には、地元の公務員に再就職しようという気持ちは常に抱いている」ことを会社側で忘れてはならない。ともすると上役・先輩達は新参者に対しては厳しい。「こんなことも分からないのか」、「大学で何を勉強して来たのだ」等々。昔は意地張りが多かったので頑張りも効いたが、現代の若者には何故か意地は育たず、素直さと優しさが共存しているのみである。そういう子たちには褒めて指導するしか手はないのである。上役・先輩諸士達は「それでは甘過ぎる」とおっしゃるに違いない。しかし、私から見れば貴方達も、技術的にも、強いて言えば生き方にも結構、甘いところはあるのである。私自身も先達から見ればまだまだ頼りないと思われているかも知れない。そうでも思わないとこれからはますます人材を確保することが難しくなる時代になることだけは確かなようである。

最後に、その他の業種への就職率の順位を述べてみたい。第4位：道路建設業12名（6％）、第5位：電気・通信・設備工事10名（5％）、第6位：商社（営業）8名、第7名：ソフト関係6名、建築関係6名、第9位：斜面・基礎工事4名、第10位コンクリート関係3名、その他リース会社2名、進学2名、貿易会社1名、鉄道会社1名、就職せず1名、私の不勉強で業種が定かでない会社5名となっている。

総じてみると、今日よく言われているように土木離れは総勢185名中23名（12％）で丁度コンサルタントに就職した者の数と同じである。その数を多いと見るか、それ程でもないとするかは人それぞれの自由であるが、現実には土木離れが進行していることは間違いないようである。その傾向は既に入学時に表れている。土木工学科への入学者の大半は、電子、

通信、建築学科に希望していたにも拘わらず高校の学業成績が思わしくなく先生から「お前は土木でないと無理だ」と言われてきた者達である。

どうしてそんなにも土木を嫌うのであろうか。「汚い」、「ださい」、「格好が悪い」と外見上のことばかりを気にするのだろう。外見がきれいに見える程、中味はきつく大へんであることに気づいていないのである。私は公共事業ほど社会にとって大事なものはないと信じている。それほど社会に貢献している土木の仕事にたずさわっていることに何故に誇りを持ってないのか。それは日本人に公德心が全く欠落していることに他ならないと思うのである。

